

エタノール摂取中の消化管での
血清蛋白漏出

Gastrointestinal Plasma Protein
Loss During Ethanol Ingestion:
A.R. Chowdhury, L.S. Malmud,
V.P. Dinoso, Jr. (*Gastroenterology*
72: 37~40, 1977)

エタノールが胃粘膜へ及ぼす不利な影響はいろいろと研究されている。急性びらん性胃炎はその1つである。著者らは、慢性萎縮性胃炎では正常者または慢性表層性胃炎に比べて、エタノール摂取中に便中にCr⁵¹をラベルした赤血球を多く認めたことを既に報告した。今回はエタノール摂取中に人の正常胃粘膜で同様なことがおこるかどうかを調べた。まず血漿蛋白の便中への排出を調べると、対照では、正常、表層性胃炎、萎縮性胃炎の三者ともきわめ

て軽微で差はなかった。ところがエタノール摂取後で、三者とも排出が多くなった。表層性胃炎では著増を示し、萎縮性胃炎では更に高く、対照時の2倍値を示したが、正常では増加を示したものの有意ではなかった。胃での血漿漏出はエタノール摂取後増加した。萎縮性胃炎では、正常、表層性胃炎に比べて高値を示した。

200 ml の40%エタノール摂取後におこる血漿アルブミンの便中排出増加は、胃がその場所であることを示唆している。萎縮性胃炎では、正常や表層性胃炎に比べてエタノール摂取後に排出高値を示したことは、先に著者らが萎縮性胃炎で便中に赤血球排出が他に比べて大であったことを報告したことと一致している。

Glass らは、慢性萎縮性胃炎患者の胃液が正常や表層性胃炎の場合よ

りも多量のアルブミンを含んでいるのを報告した。萎縮性粘膜での電解質やアルブミンの透過性の亢進は、細胞剥離の増強とともに粘膜にびらんをつくりやすくする。そして胃内への血漿や赤血球の脱出を増大させる。内視鏡的にも、40%のエタノール摂取後、萎縮性胃炎では正常や表層性胃炎に比べより高い頻度で粘膜びらんを認めた。ラットの実験で、エタノールを胃内に注入後、小腸に出血性びらんを認めたことは、ここから血漿が失われるかもしれないことを示している。慢性のアルコール常飲者では、同じ年齢層の対照群に比べて、慢性萎縮性および表層性胃炎の頻度は高く、これはエタノール摂取により便中への血漿蛋白排出の増加を示し、萎縮性胃炎での臨床的意義は大である。

(愛知県がんセンター 小林世美抄)